

会 議 録

会 議 名	平成 28 年度第 1 回 辰野町図書館協議会
開 催 日 時	平成 28 年 11 月 28 日 (月) 午後 1 時～2 時 20 分
場 所	辰野町立辰野図書館ふれあいルーム
出 席 者	7 名中 7 名 (ほか事務局 3 名 ※教育長中座)
会 議 次 第	<p>進行 課長</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会のことば 2. 委嘱状交付 3. 教育長あいさつ 4. 自己紹介 5. 会長選出 6. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成 28 年度図書館利用状況について 2) 平成 28 年度図書館事業運営および図書館まつり報告 3) 平成 29 年度予算要求について 4) その他 図書選定について 7. 閉会のことば
会 議 結 果	<ol style="list-style-type: none"> 2. 委嘱状交付 5 名 (川島委員、中谷委員、沖山委員、宮澤委員、有賀委員) 5. 会長選出 互選により川島弘さんを選出 6. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成 28 年度図書館利用状況について 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。 2) 平成 28 年度図書館事業運営および図書館まつり報告 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。 3) 平成 29 年度予算要求について 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。 4) その他 図書選定について事務局より願います。
発 言 者	発言の内容
会 長	<p>協議会委員に新たにお二人をお迎えしての開催となる。図書館運営のために、それぞれの立場からご意見をお出しいただきたい。</p> <p>協議事項 1) 平成 28 年度図書館利用状況について、事務局から説明があったが質問などお出しいただきたい。</p>
A	資料では、新規登録者の数がわかるが、登録者の実数はどのくらいあるのか。
事 務 局	<p>登録者累計で約 16,000 名になると思われる。(※事務局注 12/3 現在 16,059 名)</p> <p>住民基本台帳との連携もなく、住所要件も問わないなかで、実際には死亡、転出などで無効となっている登録者も多い。10 年以上利用のない登録者は除籍するという図書館もあるが、大人になってから図書館利用を再開する利用者も多く、運営の方向は定まっていない。</p>
会 長	協議事項 2) 平成 28 年度図書館事業運営および図書館まつり報告について、事務局から説明があったが質問などお出しいただきたい。

A	ボランティアの受入についてお聞きしたい。 豊南短大生や辰野中学校生徒は、どんなボランティアをしているのか。
事務局	作業が中心となる。年度当初に計画が入るのではなく、任意の学級やゼミで、生徒または指導教員から、ボランティアを受け入れてほしいという申し入れがあり、それを受けて、図書館サイドで作業を準備するというやり方がほとんどだ。 その時に図書館でお願いしたいことをしていただくので、書棚の清掃だとか、環境整備が主な作業となる。小野図書館へも両小野中学校から草刈りのボランティアが入る年もある。
A	ボランティア研修で、若い世代の人たちに絵本を読むというようなレクチャーをやり合うことはできないだろうか
C	読書支援ボランティアとして活動しているが、現在一緒に勉強したり活動しているのは、若い世代は少なく、50代以上の方が多い。中には子どもと絵本を楽しみたいということで仲間に入っている方もいるが、ごくわずかだ。ボランティア活動に足を踏み出すとなるとさらに限られてくるのが現状だと思う。
事務局	児童・生徒・学生のボランティア活動については、正直なところ学校にお任せしていいのではないかという認識もある。
A	学校現場では、指導者もない、時間も取れないという現状がある。辰野高校のクラブからカレンダーも届いたりしているようだし、つながりはあるのだと思う。若い世代へ図書館からの呼びかけも必要なのではないだろうか。呼びかけてみて反応があればぜひやっていていただきたい。
事務局	辰高生には、月例の折り紙教室や、図書館まつりでのイベントのお手伝いにも参加していただいている。また今年初めて行ったビブリオバトルでは、豊南の教授から呼びかけがあり、短大生が学外授業で参加してくれた。つながりはでき始めているので広げていければいいと思う。
会長	協議事項 3) 平成 29 年度予算要求について、ご意見などお出しいただきたい。
B	実施計画にあるダイジー図書とはどういうものか。今までの録音図書との違いは何か？
事務局	国際規格の情報システムで、記憶媒体は CD-ROM だ。従来の録音図書と比較して、目次から読みたい章や節、任意のページに飛ぶことができるなど、使用する人たちの利便性が高い。また作成にあたっては、取り直し、頭出し、追加などがパソコン操作で容易にできる。視覚障害者だけでなく、学習障害などを持つ人にも有効だといわれている。再生には専用の機器が必要となる。
A	そういうシステムであれば、高齢による弱視者などにも福音が広がると考えられる。県内ではどういう地域で取り組まれているのだろうか。
事務局	今まで、図書資料の録音については、著作権の壁が高かったが、法改正により比較的容易に録音図書作成ができる環境が整ってきている。近隣では、下諏訪、飯田が図書館でダイジー図書作成を行っている。安曇野市、長野市でも実施している。上伊那では伊那市や辰野町が従来の CD による録音広報制作を行っているが、今後はダイジーがスタンダードになっていくと思われる。
A	信濃毎日新聞のデータベースの利点はどのようなことか。また DB 導入は町としても必要なのではないか。
事務局	何と言っても膨大な記事が瞬時に検索できるということに尽きる。アーカイブスを含めると、信毎が創刊された明治以降現在まで、任意のキーワードを入力するとそれに関係する記事や紙面を探してくれる。行政職員や議員の方たちにはとくに使えるツールだと考える。図書館まつりの体験は大人気だった。

E	DBを導入すれば、保管している新聞は廃棄するというのか。
事務局	信濃毎日新聞は昭和46年分以降を永年保存していて、閉架書庫の棚のかなりのスペースを占め、ここ何年かの分は床に直置きしているのが現状だ。DB導入により廃棄できれば、管理がたやすくなる。
会長	経費がかかることではあるが、議員の皆さんの力をお借りしながら、図書館充実のために実現をしていきたい。
D	先ほどのデイジー図書普及の件も含め、信毎DB導入についても議会常任委員会などで話していきたい。
会長	4) その他について事務局より説明があったが、ご質問などお出しいただきたい。
A	日本書籍出版協会からの文書に関わってお聞きするが、複本購入というのはどういうことか。
事務局	<p>複本というのは同じ本を2冊以上所蔵することをいう。この文書が出された背景には、長引く出版不況がある。今まで、図書館と出版界はどちらかと言えば相対する関係で、著作権に関わって軋轢もあった。しかし、昨年来、出版界から、出版文化継続発展のために協力をという申し出があり、様々な場で意見交換が行われている。</p> <p>今回は、複本購入や文庫本購入について、図書館が節度ある購入をすることで本の販売を圧迫しないでほしいというお願いだ。</p> <p>辰野では、ベストセラーの複本購入や文庫本購入は原則として行っていない。ただ、利用者からリクエストがあった場合の対処は難しく、利用者に理解を呼びかける必要もある。</p> <p>文芸書やベストセラーだけの図書館では存在意義はないと考えている。基本図書や、様々なジャンルの資料、郷土資料も収集していきたい。</p>
B	図書館で郷土研究をする人は多いのか。
事務局	<p>辰野町誌編纂の際の資料を、旧新町保育園にできた文化財センターに運んであることや、教育委員会文化係を中心に郷土研究は一定程度組織化されていることもあり、図書館で目立って郷土研究をするということはない。</p> <p>それでも個人の興味関心のもとに、郷土資料を閲覧する人は散見される。</p>
会長	全体を通してご意見などなければこれで閉会としたい。熱心にご協議いただきありがとうございました。